

第六次土岐市総合計画基本構想 〈案〉

平成27年5月

土岐市

目次

第1編 序論.....	1
第1章 計画策定にあたって.....	2
1 計画策定の背景・目的.....	2
2 計画の構成と期間.....	3
第2章 計画策定の背景.....	4
1 時代潮流.....	4
2 土岐市の特徴と現状.....	8
3 市民の声.....	10
4 まちづくり懇談会での意見.....	14
第3章 まちづくりの課題.....	16
第2編 基本構想.....	19
第1章 まちの将来像.....	20
第2章 めざすまちづくりの方向性.....	22
1 基本指標.....	22
2 土地利用構想.....	24
第3章 基本目標・施策の大綱.....	28
1 基本目標.....	28
2 施策の大綱.....	38
第4章 基本構想の推進に向けて.....	40

第1編 序論

第1章

計画策定にあたって

1 計画策定の背景・目的

総合計画とは、土岐市の将来のまちの姿を私たち市民と行政とが共有し、それを実現させるための道筋を示すものです。

福祉や環境、防災や防犯といった私たちに身近な分野で、今後、どのような方向で事業を実施していくのかを示し、土岐市に関わるすべての人々が、共に理解し協力してまちづくりをしていくための計画です。

近年、少子高齢化や大災害など私たちの生活を取り巻く環境は刻々と変化し、土岐市を取り巻く状況も大きく変化しています。

そこで、土岐市に住み、土岐市で働き、土岐市で学ぶ私たち、土岐市を訪れるすべての人々が幸せとぬくもりを感じるができるまちをつくっていくため、次の4つの視点で「第六次土岐市総合計画」を策定しました。

- ①時代潮流に対応した総合計画
- ②市民の意向を踏まえた基本構想と計画の実効性、弾力性、即応性を備えた実施計画の2層構造からなる総合計画
- ③市民にわかりやすい簡素な総合計画
- ④行政経営を円滑に進める総合計画

2 計画の構成と期間

本計画は、「基本構想」と「実施計画」の2部で構成されます。

(1) 基本構想

基本構想は、今後、10年間で私たちが目指すまちの将来像を定めます。

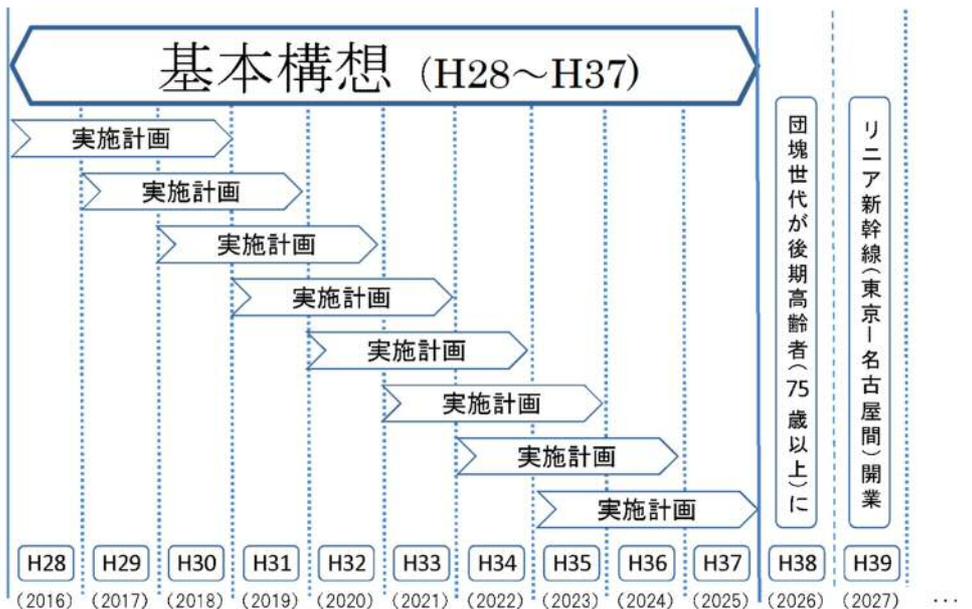
また、将来像の実現に向けて実施していく施策について、大きな方向性を示します。



(2) 実施計画

実施計画では、基本構想で示された方向性に基づいて、実際に行っていく具体的な事業について示します。

計画期間は3年間ですが、毎年見直しを行い、基本構想との間にずれが生じないように事業を計画し実施していきます。



第2章 計画策定の背景

1 時代潮流

(1) 少子高齢社会と人口減少

日本の総人口は平成 37 年（2025 年）には約 1 億 2 千万人で国民の 4 人に 1 人が高齢者となり、医療・介護・福祉サービスの需要が急増することが懸念されています。また、合計特殊出生率は 1.4 程度と人口を維持するための 2.07 よりも低く、少子化の傾向が顕著になってきています。人口減少は、働く人が少なくなり、地域の賑わいの低下、内需縮小*を招き、国内のものづくりが、更に空洞化する恐れがあります。一方で、女性や高齢者がこれまで以上に活躍するようになると、持続的な成長につなげることもできると言われています。

内需縮小

内需とは国内需要のこと。人口が減少することにより国内における消費が少なくなることが懸念されている。

地方分権

住民に身近な行政は、できる限り地方公共団体が担い、その自主性を発揮していくこと

税財政制度の改革

住民の多様なニーズに応える地方分権にかなった地方財政制度の改革のこと

(2) 地方分権*と行政改革

国の借金は年々増加し 2015 年 3 月末時点では残高が 1,053 兆円と国民 1 人当たり約 830 万円にまでなっています。国の財政が厳しさを増していくなか、「地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律」の施行や税財政制度の改革*など、地方分権への取り組みが進められてきました。土岐市においても、財政的に依然厳しい状況にあるものの、自主的で自立した政策の立案及び推進体制を構築していくことが求められています。

(3) 多様化する価値観

近年、経済的な豊かさを追求するよりも、スローライフ※、ロハス※と呼ばれる地球環境や持続可能性といったものが注目を集め、心の豊かさを重視する傾向が強くなってきています。また、男女共同参画※やノーマライゼーション※、多文化共生※など、多様な価値観や個性を尊重し共生することの重要性も高まっています。

(4) 環境問題に対する意識の高まり

化石燃料の大量消費により CO₂ 排出量は増加傾向にあり、地球温暖化の影響は年々、顕著になってきています。また、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、原子力発電の安全性に係る信頼が損なわれ、日本のエネルギー供給構造の脆さが明らかになりました。これからは、省エネルギーの徹底的な推進、再生可能エネルギー※の開発・普及の強力な推進が更に必要となつてきています。

(5) 安全・安心に対する意識の高まり

東日本大震災は、被災地をはじめ日本全体に甚大な被害をもたらした。私たちの防災に対する意識を大きく変えてしまいました。また、地震以外にもゲリラ豪雨や土砂災害などの災害も発生しており、人々の防災意識は急速に高まっています。更に、高齢者や子どもを狙った凶悪犯罪も多く発生しており、身近な地域での犯罪への不安が増大しています。

スローライフ

大量生産・高速型のライフスタイルに対して、ゆっくりした暮らしを実践すること。

ロハス

Lifestyles of Health And Sustainability の略。健康や環境に配慮し、持続可能な社会を志向するライフスタイルのこと。

男女共同参画

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されること。

ノーマライゼーション

障がい者や高齢者がほかの人々と等しく生きる社会・福祉環境の整備・実現を目指す考え方。

多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

再生可能エネルギー

太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのこと。

リーマンショック

アメリカの投資銀行であるリーマン・ブラザーズが破綻したことに端を発して、続発的に世界的金融危機が発生した事象のこと。

アベノミクス

安倍政権が実践している経済政策のこと。「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」からなる。

グローバル化

政治・経済、文化など、様々な側面において、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。

(6) 激変する経済環境

日本経済はリーマンショック*以降、長年、低迷を続けてきましたが、近年はアベノミクス*効果により、回復の兆しを見せ始めています。また、経済のグローバル化*が進み、経済活動の機会が拡大する一方、国際競争の激化、生産拠点の海外移転などの負の影響も見られるようになっていきます。

(7) 子どもを取り巻く環境の変化

近年、核家族化や少子化、地域コミュニティの希薄化など、子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。このような変化は、家庭や地域における教育力の低下の要因とも言われています。すべての子どもに生きていく力を育むために、家庭・地域・学校が互いに連携して取り組むことが求められています。

(8) 地域の誇りを育む歴史や文化

ユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産に「和食」・「和紙」が登録されるなど、日本の地域にある文化が世界的に注目されています。関連する法律も制定され、地域の誇りを育む固有の歴史や文化を活かしたまちづくりが求められるようになっていきます。

(9) 市民参画と協働意識の高まり

ボランティア意識の高まりとともに、市民、団体、企業などが地域づくりの担い手となり、行政と協働することでより良いサービスを提供していく考え方も広まっています。政策を考える過程から共に協力し合うことで、私たちにとって、よりよいまち、より満足できるまちをつくっていくことが可能となります。

まち懇写真

(10) 高度情報化する社会

インターネット、スマートフォン^{*}、ウェアラブル端末^{*}など、私たちの周りのIT環境^{*}はめまぐるしい速度で変化しています。一方、個人情報保護の意識が高まるなか、情報流出など情報に関する様々な犯罪が社会問題化しています。また、行政が提供する情報のあり方も、二次利用を前提とした積極的な情報公開（オープンデータ）へシフトしつつあります。

(11) 老朽化する社会資本

これまで拡大してきた市街地とそれを支えるインフラなど公共施設の老朽化とその更新費用をどのように捻出するかが、大きな問題となってきています。そのため、長期的な視点で公共施設の更新、統廃合、長寿命化など、財政負担を軽減・平準化する方策や近隣都市と連携するなど、広域的な利用や整備を検討していく必要があります。

スマートフォン

携帯電話と携帯情報端末（PDA）を融合した「Smart＝賢い」携帯端末のこと。

ウェアラブル端末

腕や頭部など、身体に装着して利用することが想定された端末のこと。

IT

Information Technology の略で情報技術のこと。

2 土岐市の特徴と現状

(1) 土岐市の強み

1300年の伝統を持つ美濃焼の産地

本市は1300年の伝統を持つ美濃焼の産地として、全国でも有数の焼き物のまちとなっています。これら焼き物は、歴史や産業として市民に根付き、体験施設・買い物などで観光客を楽しませてくれています。

写真など

観光・交流による来訪者数の拡大

「土岐プレミアム・アウトレット」には590万人超の方が訪れ、他にも「道の駅志野・織部」、「道の駅どんぶり会館」、「テラスゲート土岐」、「土岐美濃焼まつり」など市内外から大勢の観光客が訪れています。

写真など

豊かな自然環境

市域の多くを占める緑豊かな丘陵や土岐三国山県立自然公園など、市内外に誇る豊かな自然に恵まれています。特に、鶴里地域や泉地域では、全国的にも貴重な自生するシデコブシの群生地も見られます。

写真など

便利な広域交通網

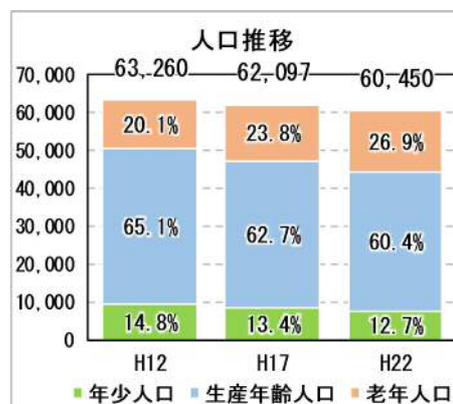
中央自動車道が東西に、東海環状自動車道が南北に通っており、広域交通の結節点となっています。また五斗蔭スマートインターチェンジ（IC）を含むICが市内に3カ所あり、各方面から観光に訪れる方の利便性が増ただけでなく、物流の重要な拠点となっています。2027年にはリニア中央新幹線岐阜県駅が中津川市内に整備され、更なる交流人口の増加が期待されます。

(2)

土岐市の弱み

人口減少と高齢化の進展

本市の人口は減少していますが、高齢単身世帯、要支援・要介護認定者数は増加しています。そのため、福祉対策や高齢者が元気に生活できる環境づくりなどが求められています。



駅周辺の衰退・空洞化

市内の商業の事業所数が減少しており、特に、駅周辺の衰退が顕著です。空き店舗対策や公共交通機関の充実、イベント開催や施設等の活用等による交流機会を強化し、市民生活を支える役割として再生していくことが求められています。

事業所数等の減少・産業活動の低迷

市内の事業所数や従業員数は減少し、特に窯業の製造品出荷額は最盛期の半分程度となっています。基幹産業でもある窯業の振興と新産業の誘致や育成、起業支援が求められています。



協働まちづくりの取り組みの遅れ

核家族化などが進み、これまでの地域まちづくり活動が希薄化する傾向がみられます。市民の意見を聴き、参画する機会の充実と自主的な活動の支援が求められています。

財政力の脆弱性

市の財政は厳しさを増しており、身の丈にあった歳出と新たな歳入確保に取り組み、健全な財政運営が求められています。

地域医療への不安

診療報酬の見直しや医師不足など、地方病院を取り巻く環境は厳しくなる一方、地域医療の重要性は増し、市民が安心して適切な医療を受けられる体制を確保することが求められています。

3 市民の声

市民の方が、今の施策をどう評価しているのか、目指したいまちの将来像はどのようなものなのか、といった市民の声を把握するために、市内在住の市民、中学生、企業・事業所、市民活動団体、自治会を対象に意識調査を行いました。

(1) 調査概要

調査の対象や配布・回収数は下記のとおりとなっています。

	調査対象	調査方法	配布・回収数
I 市民	土岐市に住む 16 歳以上の市民 3,000 人	郵送による配布・回収	配布数 3,000 票 回収数 651 票 回収率 21.7%
中学生保護者	土岐市内の中学校に通う 2・3 年生の保護者	学校を通じた配布・回収	配布数 990 票 回収数 494 票 回収率 49.9%
II 中学生	土岐市内の中学校に通う 2・3 年生	学校を通じた配布・回収	配布数 1,003 票 回収数 896 票 回収率 89.3%
III 企業・事業所	土岐市の企業・事業所	郵送による配布・回収	配布数 99 票 回収数 54 票 回収率 54.5%
IV 市民活動団体	土岐市で活動している市民活動団体	郵送による配布・回収	配布数 73 票 回収数 35 票 回収率 47.9%
V 自治会	土岐市内の自治会長	自治会を通じた配布・回収	配布数 350 票 回収数 219 票 回収率 62.6%

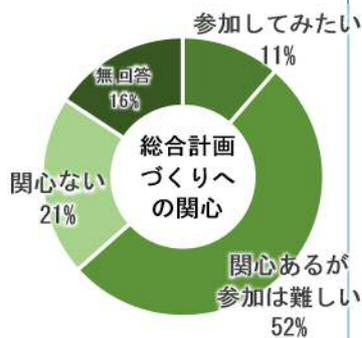
(2)

調査結果

市民・企業等との協働によるまちづくりについて

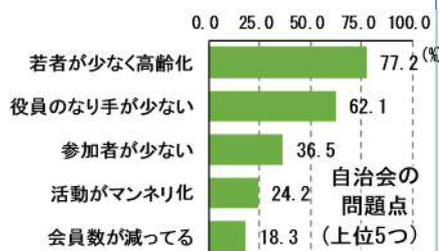
市民の声を総合すると・・・

「総合計画って何のことですか？内容をよく聞けば、ちょっと計画づくりに関わってみたいとも思いますが……。あと、行政がやっていることに、自分たちの意見が反映されているとは、正直あまり思っていない。」



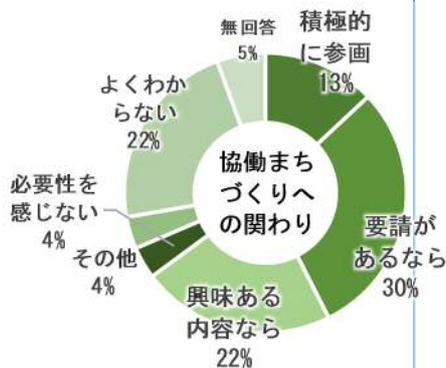
自治会の声を総合すると・・・、

「自治会に入る若い衆が最近減ってきてね……。今いる人も結構な歳だし、やる人がいなくなっているんだよ。」



企業の声を総合すると・・・

「地域貢献活動といっても活動しているのは一部の企業さんですよ。えっ？ まちづくりを市民の方や行政さんと一緒に、ですか？興味がある内容だったり、お願いされたりしたら、もちろんやりますよ。」

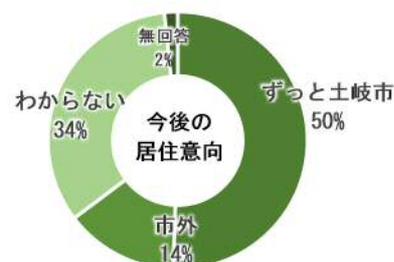


このような声から、これからは市民や企業がまちづくりに参画しやすい環境を設けるとともに、自治会などの各種団体と連携しながらまちづくりをしていく必要があります。

土岐市のイメージ・暮らしやすさについて

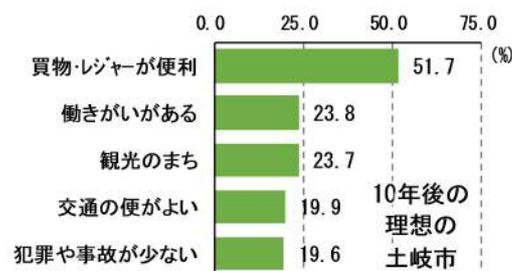
市民の声を総合すると・・・

「土岐市って、緑が豊かで安全で、暮らしやすいまちだと思いますよ。あとは、医療や福祉、子育て支援等が整うともっといいですね。だけど、周りでは他の市で住もうかなって考えてる人もいるみたいですよ。土岐市は買い物や通学が不便なんですって。」



中学生の声を総合すると・・・

「土岐市で買い物できたり、遊びにいけたり、働けたりできるまちになるといいなあ。」



企業の声的综合すると・・・

「土岐市は、交通が便利で災害や治安面で心配がなくて、他と比べていいところですよ。」

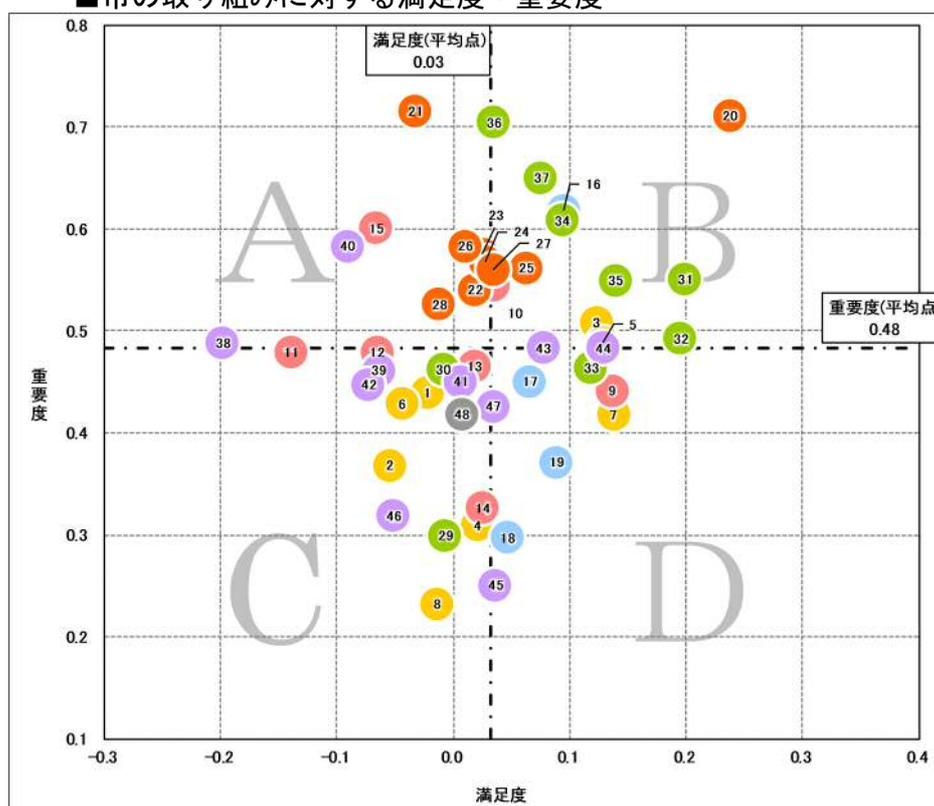
このような声から、これからは、医療や福祉、子育て支援等が整った安全安心なまちになることが望まれています。

また、買い物や通学など日常生活の利便性への不満を少しでも解消していけるような対策を講じていくことが必要です。

市政に対する評価や今後のまちづくり課題について

「病院の充実」、「土岐市駅周辺の整備」、「身近な生活道路の整備」、「雇用環境の充実」などへの不満は高くなっています。

■市の取り組みに対する満足度・重要度



No	取り組み	No	取り組み	No	取り組み
1	市政に関する市民参加の機会の充実	17	生涯学習の充実	33	交通安全対策
2	市民団体やNPOなどの活発化	18	スポーツの振興	34	防犯・治安対策
3	市政に関する情報提供	19	文化・芸術活動の振興	35	消防体制の整備
4	男女共同参画の推進	20	保健・健診サービスの充実	36	救急医療体制(夜間・休日・救急)の整備
5	健全な財政運営	21	医療機関(病院)の充実	37	地震・台風などの災害対策
6	行政改革の推進	22	地域活動や福祉活動に対する市の支援	38	土岐市駅周辺の整備
7	広域行政・広域連携の推進	23	子育て支援の充実	39	幹線道路の整備(国道・県道など)
8	在住外国人との交流や国際交流の推進	24	保育園・幼稚園の充実	40	身近な生活道路の整備
9	陶磁器産業の振興	25	高齢者福祉の充実	41	河川の整備
10	陶磁器産業以外の産業の振興	26	介護サービスの充実	42	公共交通網の整備
11	商業の振興	27	障がい者福祉の充実	43	上水道の整備
12	観光の振興	28	要支援者に対する支援の充実	44	下水道の整備
13	農業の振興	29	環境保全の推進	45	住環境の整備
14	林業の振興	30	大気汚染・騒音・水質など公害対策	46	街並み・景観の整備
15	雇用環境の充実	31	ごみ処理対策	47	公園・緑地の整備
16	学校教育の充実	32	資源のリサイクル対策	48	市政を総合的に評価した満足度

4 まちづくり懇談会での意見

土岐市におけるまちづくりの現状・課題等を把握するため、市内各地区においてまちづくり懇談会（まち懇）を開催しました。各地区からは、主に「土岐市駅周辺」、「地域医療体制」、「公共交通」、「観光」、「産業振興」、「住宅供給」に対する意見が多くありました。

(1) 懇談会からの主な意見

地域医療体制に関する主な意見

地域医療については、総合病院のあり方も含め、現状よりも充実することを望む意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- 医者、患者を増やし病院経営の安定を図る
- 総合病院について早急に赤字解消。できなければ廃止も
- 総合病院を検査センターにして専門医に紹介する
- 病院、福祉施設の充実

土岐市駅周辺に関する意見

土岐市駅周辺については、商業施設や図書館といった都市機能の充実や交通・交流の結節点としての利便性の向上などを望む意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- 図書館を駅前に作る
- 駅ビルを大型スーパー等入れた建物にする
- 土岐市の顔を作るため駅前の開発を
- 土岐市の中心部が近くなる交通網が欲しい

観光に関する意見

観光については、観光ルートの整備やゆるキャラやご当地アイドルなど土岐市のPRなどを望む意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- ゆるキャラを作って全国にPRする
- 映画のロケ地とアピールする
- 観光ルートの整備
- 自然や観光地などの宣伝・PRを上手に行う

産業振興に関する意見

産業振興については、企業誘致を望む意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- 新規事業者（企業者を募る）
- 雇用環境の充実
- 地場産業について、ブランディングの推進、海外販売の拡大

公共交通に関する意見

公共交通については、バス路線の充実を望む意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- コミュニティバス、タクシーの充実
- 市バス網の整備
- 巡回バスを走らせる

住宅施策に関する意見

住宅施策については、空き地や空き家対策、住宅地の供給に関する意見が多く、今後のまちづくりへの提案としては、主に下記のような内容が出されました。

- 空き地、空き家を調査し、低金額にて貸出し
- 住宅地を増やす
- 定住者、Uターン者に助成を！

第3章

まちづくりの課題

人口減少の抑制と快適に住み続けられる居住環境形成

本市の人口をみると、平成7年をピークに減少に転じ、今後も更に人口減少が進むことが見込まれています。また、労働を担う生産年齢人口（15～64歳）も年々減少しており、労働力の低下、税収の減少などの問題が懸念されます。

そのため、快適に住み続けられる環境をつくり、転出者の抑制、出生率の増加を図るとともに、U I Jターン等による移住者を増加させ、人口減少をできる限り抑制していく必要があります。

まちの活力再生と新たなにぎわい創出

大規模商業施設が進出する一方で、駅周辺をはじめとする各地区の商店街のにぎわいは年々失われてきています。今後は、国道19号線等の幹線道路沿いの商業施設や大規模商業施設との機能分担を図りながら、市の顔となる土岐市駅周辺や各地区の中心を担う商店街において、地産地消、地域密着など人やモノを惹きつける魅力を高め、にぎわいを創出することが必要です。

安全・安心な地域づくり

大規模災害時に被害を最小限に抑えるためには、市民一人ひとりが自らを守る自助、近隣で互いに助け合う共助、そして行政が行う公助、これらが連携し対策を行っていくことが重要です。それには、市民が日頃から災害に対して備え、災害発生時に的確に行動できるようにすることが重要です。

また、地域で安全に生活して行く上で、犯罪や交通安全に対する備えも重要です。そのため、防犯、交通安全に対する市民意識を向上し、自治会など地域と連携した活動を促進し、身近な地域における犯罪や交通事故などを軽減させ、安心・安全な地域社会を構築していく必要があります。

次世代を育む地域づくり

本市の平成 25 年の合計特殊出生率は 1.23 となっており、国の平均 (1.43) を大きく下回っています。全国的な少子化傾向の中、本市においては出産可能な医療機関がないため、産科を望む声も多数あります。市民が安心して出産できる体制の整備が必要となっています。

また、若者の出会いから出産、子育て、教育に至るまでの各段階に応じた多様な子育て支援とともに、女性の就労環境の改善など、子育て世帯が住みやすい地域づくりを進めていくとともに、地域が一丸となり、子育て・教育環境を充実させていく必要があります。

持続可能なまちづくりを支える行財政運営

少子高齢化に伴う経済の縮小により税収等の伸びが期待できないなかで、将来にわたる行政需要・行政課題に的確に対応するためには、大幅な経費削減に最大限努めるとともに新たな財源を確保し、持続可能なまちづくりを支える財政基盤を確立する必要があります。

第2編 基本構想

第1章 まちの将来像



土岐市は、平成 18 年度を初年度とし平成 27 年度を目標年次とする「第五次土岐市総合計画」において、「緑・美濃焼・みんなの笑顔 未来を拓く快適・交流都市」を将来像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進め、一定の成果をあげてきました。

しかし、人口減少や少子高齢化、地域主権型社会の進展、防災やエネルギー問題への意識の高まり、市民ニーズの多様化など、自治体を取り巻く情勢は大きく変化しています。本市の人口は減少しており、今後も少子高齢化が一層進むことで、社会、経済、地域などさまざまな場面でより深刻な問題が生じてくることも予測されます。また、市民一人ひとりの価値観やライフスタイルの多様化も進み、安全・安心や健康志向の高まりにみられるように、心の豊かさや暮らしのゆとりを望む方向性が一層鮮明になってきています。

そうした中で、 を目指し、まちの将来像を「 」と定めます。

※以下のキーワードをふまえて要検討

土岐市の魅力 : 「自然・緑・里・山」、「美濃焼・陶磁器・やきもの」、「豊かさ・笑顔」、「暮らしやすい・静か・便利・空気がきれい」、「安全・安心、平和」、「交流」など

まちづくり動向 : 健康・いきがい、幸せ・幸福感、きずな、つながり、活力・創生、協働・共生、自立、自助・共助、ぬくもり、集い など

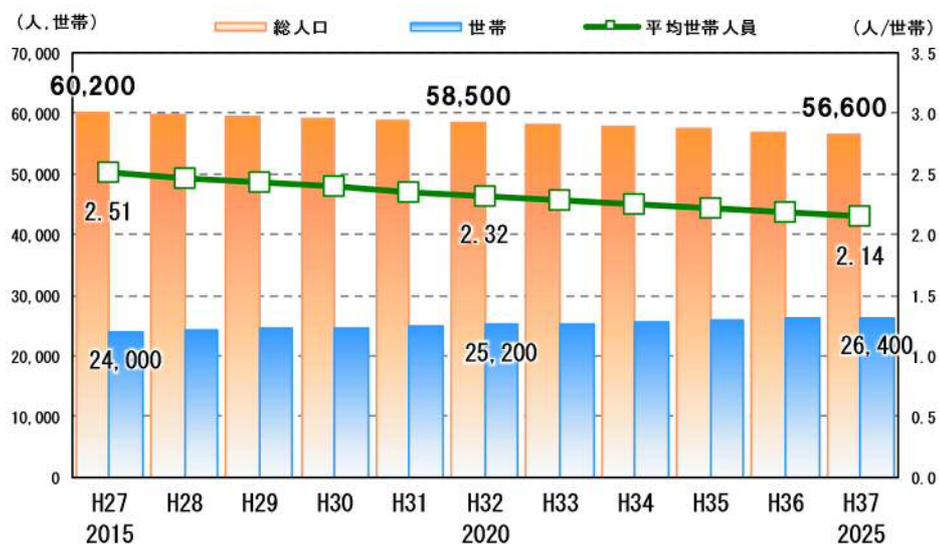
第2章 めざすまちづくりの方向性

1 基本指標

(1) 人口・世帯数

目標人口 56,600人 26,400世帯

少子化対策による出生率の向上や定住・移住対策による社会移動の改善といった対策を重点的に実施することで、平成37年度の目標人口を56,600人、26,400世帯を目標とします。



将来人口の算出方法：

住民基本台帳による人口を基礎に、コーホート要因法により算出した。

(2) まちづくり指標

まちの将来像が実現された姿を示すものとして、平成 26 年度に実施した市民意識調査の結果を元に「住みよさ指標」「定住指標」「市政満足度指標」の 3 つの指標を設定します。

① 住みよさ指標

土岐市は暮らしやすいまちと感じる市民

61.8% ⇒ 70.0%

まちの将来像に基づく魅力あるまちづくりを進めることにより、多くの市民が暮らしやすさを実感できるまちを実現し、平成 37 年(2025 年)には、「土岐市は暮らしやすいまち」と感じる市民が 70.0%になることを目標とします。

② 定住指標

今後も土岐市に住み続けたいと考える市民

50.6% ⇒ 60.0%

まちの将来像に基づく魅力あるまちづくりを進めることにより、多くの市民がずっと住み続けたいと思えるまちを実現し、平成 37 年(2025 年)には、「ずっと土岐市で暮らしたい」と考える市民が 60.0%になることを目標とします。

③ 市政満足度指標

土岐市の現状について満足と感じている市民

27.3% ⇒ 35.0%

市民参画の機会を多く設け、土岐市のまちづくりを市民と一緒に進めることにより、多くの市民が満足感を得られるようなまちづくりを実現し、平成 37 年(2025 年)には、「市政を総合的に評価した満足度」が 35.0%になることを目標とします。

2 土地利用構想

(1) 土地利用の基本方針

水と緑に恵まれた豊かな環境の中で、市民一人ひとりがゆとりと潤いを実感できる都市の構築を目指し、次の方針に基づいて、秩序ある土地利用を図ります。

＜基本方針＞

- 人口減少や高齢社会を考慮し、自然と調和したコンパクトでバランスのとれた集約型の都市構造を目指した土地利用を図ります。
- 丘陵地などの豊かな自然環境を大切に守り育てるとともに、自然災害からの被害を回避し、安全に暮らすことのできる土地利用を図ります。
- 広域交通網の結節点にあたる恵まれた立地条件を活かし、活発な交流を生み出す土地利用を図ります。
- 環境負荷の少ないまちづくりを基本に、既成市街地の再生と土地の有効活用による人とまちが活気づく土地利用を図ります。
- 子どもから高齢者まで、誰もが愛着を持って住み続けられる安心、安全、快適な住環境を形成する土地利用を図ります。

(2) 土地利用の方向

① 住居ゾーン

地域の特性を十分に踏まえた良質な居住水準と良好な居住環境の形成を目標に、用途の混在や敷地の細分化などを防止しつつ、生活環境の整備・改善を図ります。

② 商業ゾーン

市民生活の向上や地域の活性化等に対応するために必要な土地利用を図ります。土岐市駅周辺においては、まちなかの魅力ある市街地として再生を図ります。幹線道路沿道については、利便性の良さを活かし、商業施設の適切な誘導を図ります。

③ 産業ゾーン

工業団地として開発された区域では、周辺の豊かな自然に配慮し、企業誘致を進め、市民所得の向上や安定した就業機会の確保、地域人口の定住化等を図ります。

既成市街地内で陶磁器産業などの地場産業が立地している地区については、これ以上の住宅と工業の混在を抑制し、良好な環境を阻害しない範囲において、職住近接の市街地の形成を図ります。

④ 自然・緑地ゾーン

市民生活にゆとりと潤いをもたらす豊かな自然環境を大切に保全するとともに、林業や農業の振興を進め、森林や農地、緑地がもつ多面的な機能の充実を図ります。

(3) 拠点・ネットワーク形成の方針

①中心交流拠点

幹線交通網が集中するJR土岐市駅周辺は、公共交通が充実し、人・もの・情報の流れの結節点となっています。商業・サービス・居住等の都市機能を集約させ、市民や来訪者が集い、交流できる魅力と活力があふれる本市の玄関口として再生を図ります。

②自然・観光交流拠点(南部丘陵)

南部丘陵においては、豊かな自然環境の保全を基調としつつ、土岐三国山県立自然公園、温泉、農地等の地域資源を活かして、自然とのふれあいができる観光交流拠点の形成を図ります。

③自然・複合交流拠点(北部丘陵)

北部丘陵においては、豊かな自然環境の保全を基調としつつ、現在、美濃焼卸商業団地や工業団地、道の駅「志野・織部」、美濃陶芸村、土岐市総合活動センター等があり、今後も商工・観光・スポーツ・レクリエーション等、バランスの取れた土地利用を図ります。

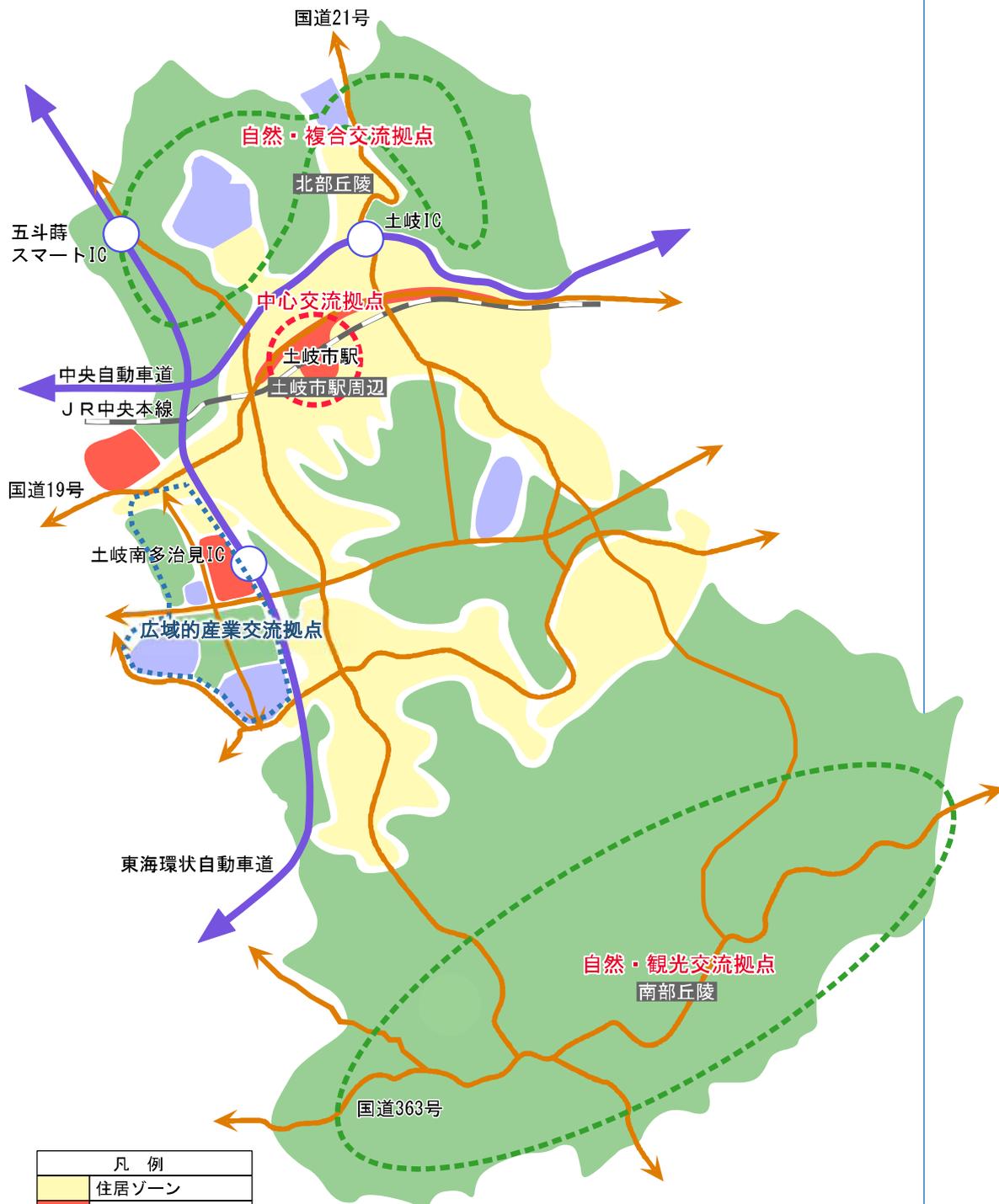
④広域的産業交流拠点

土岐南多治見IC周辺においては、自然環境との調和を図りつつ基盤整備や積極的な企業誘致を推進し、広域的産業拠点としての土地利用を図ります。また、観光・レクリエーションへの玄関口として、市内各地域への誘導を図ります。

⑤交流ネットワーク

活力ある都市活動を支え、人・もの・情報の活発な交流を促す骨格として、遠隔地と本市を結ぶ広域交流軸、隣接県や周辺都市と本市を東西・南北に結ぶ地域交流軸、市内の日々の生活を支える生活交流軸といった、体系的な交流ネットワークの構築を図ります。

土地利用構想図



凡 例	
	住居ゾーン
	商業ゾーン
	産業ゾーン
	自然・緑地ゾーン
	中心交流拠点
	自然・観光交流拠点 自然・複合交流拠点
	交流ネットワーク
	広域交流軸
	地域交流軸

第3章

基本目標・施策の大綱

1 基本目標

まちの将来像の実現に向けて、各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示す、5つの基本方針を掲げます。

基本目標 1

支え合い、安心できる暮らしづくり【安心福祉】

健康の増進、高齢者福祉、児童福祉、障がい者福祉の充実を図ることで健やかな心と身体を育み、地域住民が共に支え合いながら安心して暮らせるまちづくりを進めます。

(1) 保健の充実

健診・相談体制の充実、市民の健康意識の高揚など健康増進活動を推進し、市民一人ひとりが健康で充実した生活を実感できるように、保健・医療・福祉の連携による健康づくりを進めます。

(2) 地域医療の充実

高度専門的医療と日常医療の機能分担を進め、市民が適切な医療を受けられる地域医療体制づくりを進めます。

(3) 地域福祉の充実

地域福祉を支える体制の充実を図るとともに、すべての市民がお互いに助け合いながら、いつまでも安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指します。

(4) 児童福祉の充実

総合的な子育て支援施策を推進し、子どもを安心して産み、育てられる環境づくりと児童の健全育成を進めます。

(5) 高齢者福祉の充実

総合的な高齢者施策を推進し、高齢者が自立して安定した生活を維持し、地域でいきいきと生活できる環境づくりを進めます。

(6) 障がい者福祉の充実

心身障がい者の自立と社会参加を支援するとともに、在宅福祉の充実を図り、障がい者が地域の中で健常者とともに助け合いながら安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。

(7) 社会福祉の充実

社会情勢の変化に対応した援助体制の充実を図り、ひとり親家庭や低所得者世帯の生活支援と健康な生活の実現を目指します。

(8) 保険・年金の健全運営

財政の安定化と被保険者の健康増進を促し、国民健康保険制度の動向を捉えつつ、岐阜県との役割分担のもと、国民健康保険事業や後期高齢者医療保険事業の健全な運営を推進します。国民年金制度については、制度の周知や加入の促進を進めます。

基本目標 2

環境と調和した活力と魅力づくり【経済環境】

陶磁器産業をはじめとした農・商・工業、観光などの産業振興を図るとともに、都市と自然が共存した持続可能な活力と魅力あるまちづくりを進めます。

(1) 陶磁器産業の振興

美濃焼の販売促進やブランド力の強化を進めるとともに、後継者や技術者の育成、製造技術やデザイン力の強化等による経営基盤の充実を進め、陶磁器産業の振興を図ります。

(2) 新産業の育成

広域交通アクセス網を活用し、新産業の誘致・育成を進め、陶磁器産業とともに本市の産業を支えていく新産業を育成します。

(3) 商業の振興

商業者や商店街の商業活性化に向けた取り組みを支援するなど、消費者ニーズを充足し市民生活の向上につながる、地域に密着した魅力ある商業環境を形成します。

(4) 観光の振興

美濃焼をはじめとする産業・文化・歴史資源を活かした観光、温泉の有効活用や自然や景観を活用した観光の推進・支援などにより、市民や来訪者が本市の魅力を満喫できる観光振興を図ります。

(5) 農林業の振興

農林業の経営基盤の安定を図るため、農地や森林の保全・育成を進めるとともに、グリーンツーリズム*の推進・支援など農林資源の有効活用を進めます

(6) 雇用環境の充実

若者の定着や他地域からの人口流入を促進するとともに、少子高齢社会に対応したまちづくりを進めるため、雇用の場の創出と働きやすい労働環境の確保を進めます。

(7) 環境保全の推進

環境保全に対する市の取り組みの強化と市民意識の高揚を図り、市民と行政が一体となった環境保全活動を推進し、地球温暖化防止に向けた取り組みを推進します。

(8) 廃棄物処理・リサイクルの推進

市民・事業者と市が一体となって、廃棄物の効率的な処理を進めます。また、ごみの減量化や再資源化を推進します。

(9) 交通安全の推進

道路改良や交通安全施設の整備、交通安全教育の強化や市民の交通モラルの高揚を図り、交通事故のない安全な地域社会づくりを進めます。

(10) 公共交通の充実

市民バスの適正運行を推進するとともに、バスや列車の運行本数等の充実を関係機関に働きかけ、市民生活の利便性を高めるバスや鉄道など公共交通機関の充実を進めます。

グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。

基本目標 3

豊かな心と文化が育む人づくり【教育文化】

確かな学力を育む学校教育の充実を図るとともに、誰もが気軽に学ぶことのできる機会、スポーツや芸術を楽しむ機会、地域の歴史や伝統文化を理解し親しむ機会を創出し、毎日の生活を豊かにするまちづくりを進めます。

(1) 社会教育の充実

地域・学校・家庭の連携を強化し、一体となって青少年育成を進めます。また、基本的人権の尊重を目指した人権教育を進めるとともに、豊かな心を育むうえで基本となる家庭教育や地域教育を支援します。

(2) 学校教育の充実

地域社会と一体となった開かれた学校づくりを進める中で、確かな学力を身につけ豊かな心を育むために、教育内容や学習環境の充実、心の教育の充実等を進めます。また、子どもの個性を活かし、多様化・高度化する社会の要請に的確に対応した教育を実践します。

(3) 生涯学習の充実

生涯学習体制の充実や指導者の育成、施設の整備、講座・教室の充実等を図り、学習意欲や興味に応じて市民が生涯を通じて主体的に学ぶことができる学習環境の向上を進めます。

(4) スポーツの振興

スポーツイベントや教室を開催することにより、多くの人々がスポーツを楽しみ、スポーツを通して交流できる機会を充実させます。また、指導者の育成や施設の整備等を図り、子どもから高齢者まで誰もが手軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

(5) 文化・芸術の振興

土岐市らしさを醸し出す独自文化を育成し情報発信するとともに、市民の文化・芸術活動の活発化を促進し、古くから守られてきた伝統文化や文化財を保存・活用・継承します。

基本目標 4

だれもが参画できる協働の仕組みづくり 【行財政運営】

安心して暮らし続けられる魅力あるまちの実現に向けて、市民の積極的な市政への参画や情報共有、行政改革等を推進することにより、市民と行政の信頼関係を深め、共に考え、共に行動するまちづくりを進めます。

(1) 協働まちづくりの推進

市民と行政がそれぞれの役割と責任を確認しながら、協働して進めるまちづくりの仕組みを構築します。また、自治会等の地域活動やNPO・ボランティア等による市民活動を支援し、行政との協働・連携によるまちづくりを推進します。

(2) 情報共有の推進

行政情報の積極的な公開を行うとともに、市民へのわかりやすい情報提供やさまざまな機会での市民ニーズや意見の把握に努め、市民と行政がともに情報を共有できる環境づくりを進めます。また、今後も地域や行政の高度情報化に対応する整備・体制づくりを進めます。

(3) 男女共同参画の推進

市民の意識の高揚や女性の社会参画を促進し、男女が平等に参画し、ともに個人としての能力を十分に発揮できる社会の実現を目指します。

(4) 適正な行政経営の推進

地方分権の時代にふさわしい自立した自治体としての役割を果たすため、引き続き行財政改革に積極的に取り組み、行政サービスの向上や職員育成、効率的で健全な行財政運営を推進します。

(5) 国際交流・国際化の推進

国際交流を通じた相互理解や人づくり、市民レベルの活発な交流活動などを推進し、国際感覚豊かな人づくりや、外国人にやさしいまちづくりを進めます。

(6) 防犯の強化

警察や自主防犯組織等と一体となった防犯体制を強化するとともに、市民の防犯意識の高揚や地域の防犯環境の整備等を進め、犯罪のない安全な地域社会づくりを進めます。

基本目標 5 暮らしを支える持続可能な基盤づくり 【都市基盤】

道路や公園、上下水道などの都市機能を充実させるとともに、歴史的資産や自然環境と調和した美しいまちなみの維持と向上を図り、誰もが快適で暮らしやすいまちづくりを進めます。

(1) 消防・救急の充実

複雑・多様化する災害に的確に対処できる消防・救急体制の強化を図るとともに、火災予防の徹底や消防団活動の充実等により地域の消防力の向上を図ります。

(2) 防災の強化

災害の防止や被害の軽減に向けた治山治水対策や地震対策を強化するとともに、自主防災組織の育成など地域の防災体制を強化し、災害に強い安全なまちづくりを進めます。

(3) 駅周辺の整備

J R 土岐市駅周辺は交通・交流の結節点としてふさわしい環境整備を行い、多くの市民や来訪者が集い・ふれあうことのできる交流やにぎわいづくりを進めます。

(4) 道路・河川の整備

長期的な視野に基づき、適切な維持管理を行います。また、人と車の安全で快適な移動を支えるインフラの整備を進めます。

自然災害から市民生活を守るため、河川やため池の整備や維持管理を進めます。また、水質浄化や親水空間の整備により潤いのある水辺環境の創出を進めます。

(5) 上下水道の整備

水道施設の効率的な維持管理や耐震化を進め、安定した水の供給を確保するとともに、適切な料金設定に努め、経営の適正化や効率化を図ります。

公共下水道の効率的な整備と適切な維持管理を進めるとともに、既存の農業集落排水施設や合併処理浄化槽などの有効な利用による水洗化を促進し、快適な生活環境の確保を進めます。

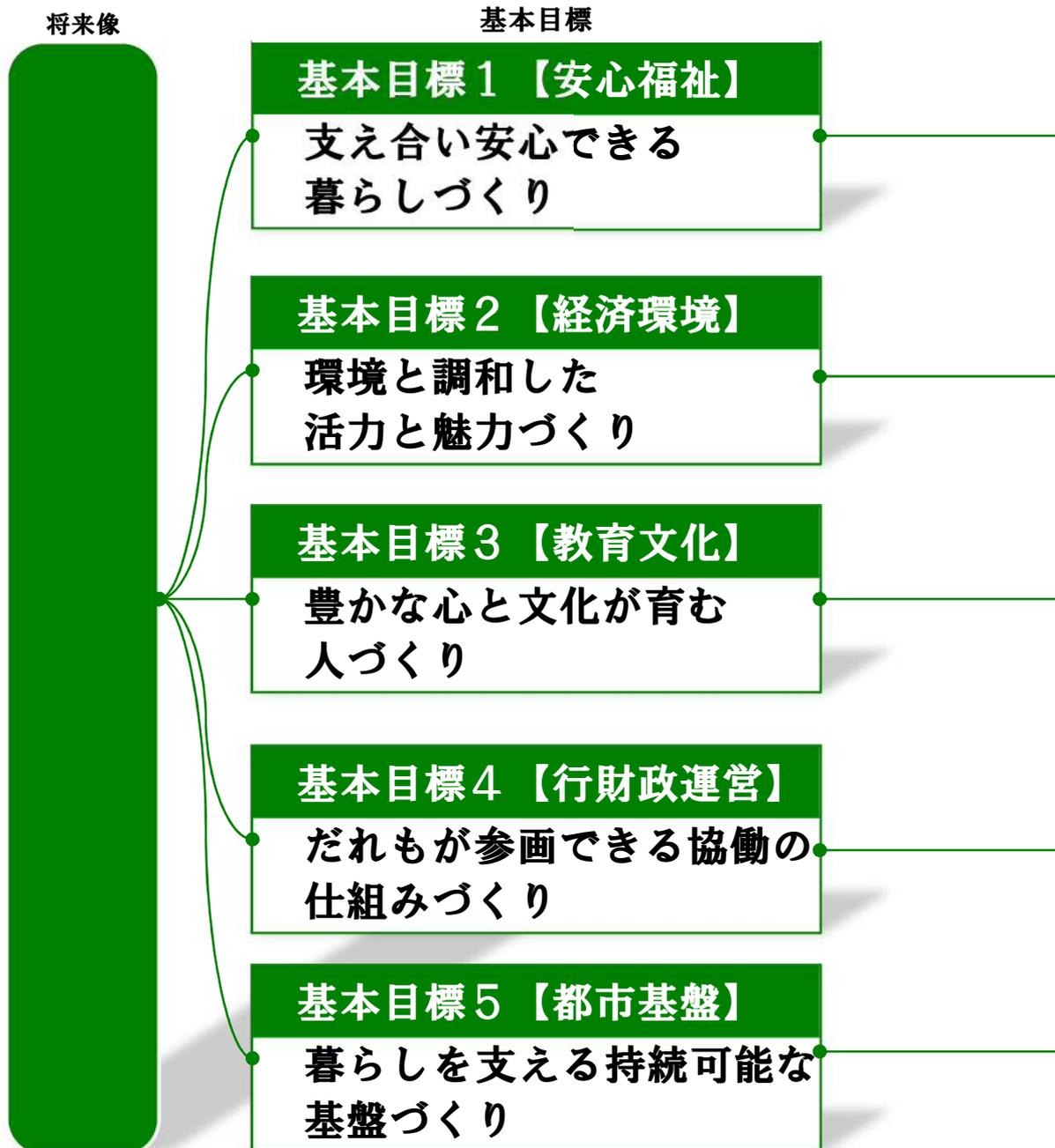
(6) 住環境・街並みの整備

高齢者や障がい者の住みやすい住宅づくり、地震に強い住宅づくりを支援するとともに、市営住宅の現状調査やニーズの把握により適正な整備改善を進め、良好な住宅・住環境の形成を進めます。

(7) 公園・緑地の整備

市民の交流や憩いの場である公園の適切な維持管理を図るとともに、多様な緑地の保全・活用を進め、ゆとりある市街地形成を進めます。

2 施策の大綱



施策

- ①保健の充実
- ②地域医療の充実
- ③地域福祉の充実
- ④児童福祉の充実
- ⑤高齢者福祉の充実
- ⑥障がい者福祉の充実
- ⑦社会福祉の充実
- ⑧保険・年金の健全運営

- ①陶磁器産業の振興
- ②新産業の育成
- ③商業の振興
- ④観光の振興
- ⑤農林業の振興
- ⑥雇用環境の充実
- ⑦環境保全の推進
- ⑧廃棄物処理・リサイクルの推進
- ⑨交通安全の推進
- ⑩公共交通の充実

- ①社会教育の充実
- ②学校教育の充実
- ③生涯学習の充実
- ④スポーツの振興
- ⑤文化・芸術の振興

- ①協働まちづくりの推進
- ②情報共有の推進
- ③男女共同参画の推進
- ④適正な行政経営の推進
- ⑤国際交流・国際化の推進
- ⑥防犯の強化

- ①消防・救急の充実
- ②防災の強化
- ③駅周辺の整備
- ④道路・河川の整備
- ⑤上下水道の整備
- ⑥住環境・街並みの整備
- ⑦公園・緑地の整備

第4章

基本構想の推進に向けて

基本構想を推進していく上で留意すべき基本的な考え方を以下に示します。

(1) 協働と自主自立によるまちづくり

協働と自主自立によるまちづくりとは、市民と事業者、行政がそれぞれの役割を持って、お互いに協力し、自分たちのまちのことは自分たちで決めるという責任を持ってまちづくりに取り組むものです。これを浸透させるには、市民と事業者、行政がお互いを良きパートナーとして、それぞれの特徴や役割を理解し、対等の関係でまちづくりに取り組みます。

(2) 信頼される市政運営

行政経営に、民間の企業経営では当たり前となっている、何のために行うのかというビジョン設定、継続的に成長していくための戦略作成、ヒト・モノ・カネ・情報という資源を効率的・効果的に使用し、持続的に発展させていく基本的な考え方を取り入れることにより、市民から信頼される市政運営の推進が図られます。

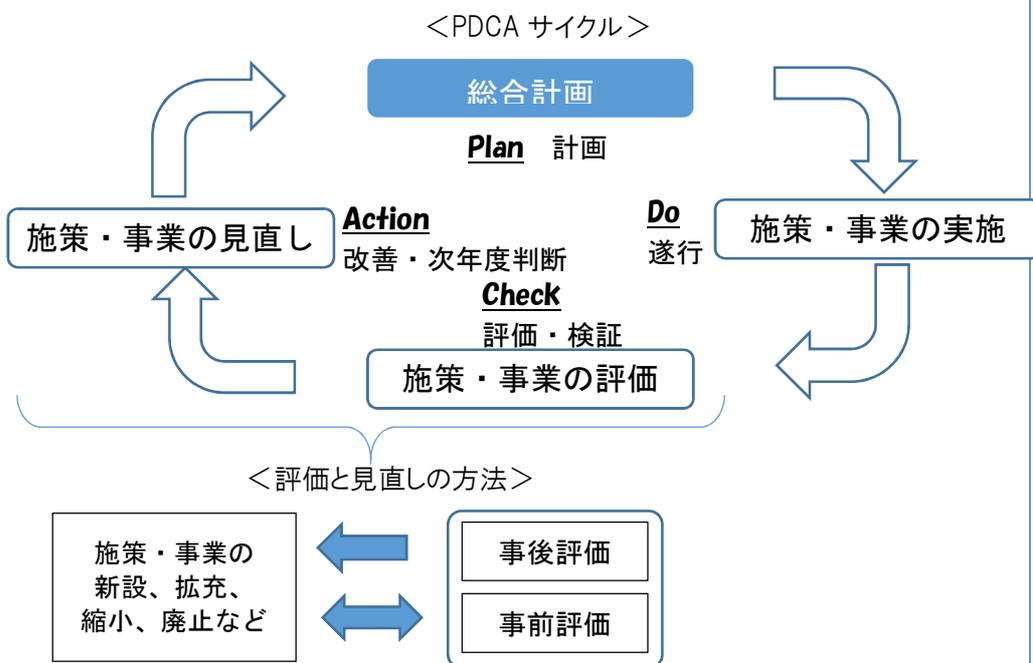
そのためには、行政運営の手法についても、民間企業の経営手法を参考とし、独自の行政経営手法を確立する必要があります。

(3) PDCA サイクルによる進行管理

総合計画に基づいて実施される施策・事業についてPDCAサイクルで進行管理していきます。

評価にあたっては、最終的にどうなることを目指すかという「目標指標」を設定した進捗管理を行うとともに、施策・事業の担当課による評価だけでなく、市民や有識者などの参画も含めて複合的な視点を取り入れた評価を行います。

■PDCA サイクルと評価・見直しの方法



(4) 重要政策分野への重点的な対応

平成31年度(2019年度)までを計画期間とする土岐市人口ビジョン・総合戦略に基づき、本市への人口定着及び市民の豊かな暮らしの実現に向けて、まち・ひと・しごと創生に関する取り組みについて、市及び関係する多様な主体が一丸となって重点的な取り組みとして推進していきます。このほか、中長期的な視点からみた市の重要政策分野について、重点的な対応を図ります。